

CNSニュースレター

2024 秋
vol. 38

～千葉の地から、千葉のチカラ～

発行元:NPO 法人千葉自然学校

〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階

電話:043-227-7103 FAX:043-202-7237

HP:<http://www.chiba-ns.net> メール:info@chiba-ns.net



「知らず嫌い」^{みつけ}発見・^{しだい}即・^{ころす}殺！だけじゃもったいない！

千葉自然学校は、持続可能な開発目標(SDGs)に取り組んでいます。



千葉県立君津亀山青少年自然の家
(通称:きみかめ)

房総の山の中には様々な動物と共に「ヤマビル」が生息しています。都心部で生活しているとあまりご縁のない生きものかもしれません。ヤマビルは体長 2～5 cm 程度、細長い体をしています。「環形動物」といわれるミミズやゴカイの仲間、湿り気と隠れることが大好きです。逆に、体のほとんど(80～90%)が水分なので乾燥や寒さは嫌いです。

そんなヤマビルさんですが、一般的には嫌われ者として扱われることが多いです。ヤマビルは人も含めて動物の血を吸うため、気づかぬうちに体にくっついていたり、ゆっくりとしゃくとり虫のように近づいてくる見た目も嫌われる要因の一つです。中には「ヤマビルを見かけたら必ず殺してください」なんていう看板を見たことも…。ヤマビルによる被害を考えると、①血を吸われる、②吸われた場所が人によってはかゆくなる、

③人によっては見た目が不快、ということです。ヤマビルに吸血された際にマダニのように感染症を媒介したという事例は今までありません。かゆくなるだけならば蚊と同じです。積極的に「好き」と言える人は多くない生き物かもしれませんが、先入観だけで嫌いという人もいるのではないのでしょうか？

写真はヤマビルの卵です。こんなにキラキラした宝石のようなものから彼らは生まれてくるのです。またお腹いっぱい吸血した後のヤマビルは体が膨らんでほとんど動きません。手に乗せてもコロコロと転がされる状態になります。お腹いっぱいの丸っこいヤマビルからはなんとなく愛嬌も感じます。

嫌いと思っているものも相手をよく知ってみれば、好きになることもあるかもしれません。

センサーカメラでイノシシの群れが
撮れました！



自然の家周辺にはヒル以外にもシカ・ウサギ・イノシシ・キョンなど多くの野生動物が暮らしています。そんな生き物の暮らしをきみかめで学んでみませんか？



文：庄司 達哉 (しゅれつく)

千葉県立君津亀山青少年自然の家 所長

事業現場レポート

大房
岬

8/10 南房総の海について考える「海のイマ」



運動園地に大きなスクリーンを立て、「海のイマ」をテーマに自由研究イベントを開催！スタッフによる生き物解説「うつぼんトーク」、NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 竹内様をお招きした自然の家所長とのトークセッション、ドキュメンタリー映画「プラスチックと海」を上映しました。また、大房岬に漂着したミンククジラの骨格標本などの展示で海の魅力についてたっぷりお届けしました。何事もまずは知ることが大切です。海的环境について一緒に考えアクションを起こしていきましょう。

当日は南房総に暮らすスタッフのコレクションがずらりと並びました！



君津
亀山

9/1 親子 de 昆虫クッキング！



「房総で虫たべるひと」こと永井弘朗様を講師に迎え、昆虫食や、調理方法について教えていただきました。

「虫って食べられるの？」と思われた方もいらっしゃると思いますが、実は食べられる虫は沢山います。今回はバッタや、セミ、サクラケムシを使って天ぷらや素揚げ、チリソースと和えてみました。「意外と食べられる」、「セミのチリソース和えが美味しい！」などの声があがり、昆虫料理を囲んで和やかな時間となりました。

また、昆虫食を通して、食糧危機解決のヒントや虫の意外な一面を知ることができました。昆虫食から生き物・自然に興味を持つきっかけになればと思っています。

セミのチリソース和え。
子ども達に大人気でした♪



シニア

10/21-22 研修旅行 於 信州高遠

現役生、OB.OG スタッフ総勢23名で信州は高遠に研修旅行に行ってきました。秋晴れのもと南アルプスの素晴らしい眺望を楽しみながら、途中高遠城址公園、建福寺を探索。城址公園は、桜と紅葉の名所ですが、この季節もまた違う趣が感じられ、建福寺は武田勝頼生母の菩提寺、石工名匠守屋貞治の見事な石仏が40体と見応えがある寺でした。

今回の宿泊は国立信州高遠青少年自然の家。大自然に囲まれた広大な場所です。夕食後は施設のプラネタリウムで宇宙の学習をした後、実際の夜空でアトラス彗星の観測や夏の大三角、カシオペア座等星空観察を体験。また翌朝は施設内を散策し、野鳥やキノコ、植生観察などの自然と触れ合いました。帰路はリンゴ狩りを楽しみ、名物の伊那そばを食べ、受講生も「普段なかなか出来ない体験が出来た」と満足。両日天候にも恵まれ、有意義な研修旅行を行うことが出来ました。



文：万仲 茂

自然学校×ネットワーク会員校

大山千枚田の棚田米



農体験



自然観察



生物

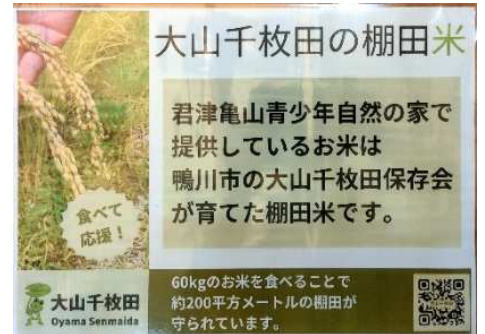
NPO 法人

大山千枚田保存会

千葉県立君津亀山青少年自然の家には小さい子から大人の方まで様々な方々がご利用されます。活動内容も各団体で様々。活動する上で食事は大切です。『食』はエネルギーの源。当施設では、食事にネットワーク会員校である鴨川市にある特定非営利活動法人大山千枚田保存会の棚田米を使っています。利用者の皆さんは、『大山千枚田の棚田米』を食べて元気に活動しています。

大山千枚田は、鴨川市の中山間に位置し房総半島のほぼ真ん中にあり、東京から一番近い棚田として知られています。また大山千枚田は階段のように連なる大小 375 枚の日本で唯一雨水のみで耕作を行っている天水田です。動植物も貴重なものが多く生息し生物多様性の宝庫

施設内でもお米の告知ポスターを掲示しています。



となっています。大山千枚田と周囲の里山は自然と人々の営みが育んできた後世に残すべき貴重な文化的景観です。大山千枚田保存会はそんな大山千枚田の里山の環境保全を進めながら、都市との交流を通して豊かで潤いのある地域社会づくりを推進しています。皆さんも大山千枚田の『棚田米』を是非食べてみてください。

そして、棚田米を食べることで棚田を守ることができるのです。60 kgのお米を食べることで約 200 平方メートルの棚田が守られています。皆さんも棚田米を食べて大山千枚田を応援してみませんか。

※HP ものぞいてみてください。 <https://senmaida.com/>

取材:香山正幸(かやまん)



きみかめ食堂にて。
美味しいお米をたくさん
食べて元気に遊ぶぞ～！

自然学校×コーディネート事業

～体験だけで終わらせないで！～

知っている→体験→？？？

「ハウス食品グループ本社株式会社」主催の体験教室を企画・運営いたしました。本事業は、会員校である「NPO 法人佐倉みどりネット」のご協力をいただき、2010年より継続して体験を提供しています。

今年は、千葉・東京・神奈川から親子11組40名のご参加がありました。

●2024年活動内容

5月:田植え体験/生き物観察/カレーライス作り/サツマの苗植え

9月:稲の収穫体験(稲刈り～脱穀～粳摺り)/カレーライス作り

(湯煎でご飯・羽釜でご飯)/サツマの収穫

●参加者の感想

ごはんが一膳食べられるようになるまでの大変さがわかった/テレビでしか見たことないことを実際に体験できて良かった/自然の中で食べるカレーは美味しい！/普段、土に触れることができないので楽しかった/今までよりも食べ物を大切にして感謝して頂こうと思います/etc



文：橋口 和美 (たこはち)

千葉自然学校 事業部長

ヤックス自然学校 ディレクター

●体験してからが始まり

ぬるっとした田んぼに足を入れての田植え、汗をかきながらの稲刈り、稲穂からお米ができるまでの過程を間近で見てみて。そして羽釜で炊いた新米の美味しさ等々。これらの体験は、参加者の考え方・ものの見方に変化をもたらし、視野が広がるきっかけになったのではないのでしょうか？体験だけで終わらぬよう、次なるアクションへの後押しができるよう今後も運営して参ります。



春の田植え体験
ひとつひとつ、苗を手植
えました。

秋は稲刈り&脱穀体験
稲からお米になるまでの
道のりは長い！



不易流行

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。



文：久保田 康雄

千葉自然学校 理事長

キャンプ、スキー、登山、カヤック、サップなど近年、たくさんのアウトドアスポーツがテレビやネットで紹介されるようになりました。しかしそれらの活動を自分たちだけで一から始めるにはちょっとハードルが高いように思われ、インストラクターや指導者から安全なやり方や楽しみ方を教えてもらうのが良いかもしれません。そこで今回は、自然体験活動の指導者について、少し考えてみたいと思います。

自然体験活動の指導者が、子どもたちを山や海に連れ出し、子どもの時にしか味わうことのできない感動的な体験や大きな自然に抱かれるような機会を提供することはとても意義深いことです。そのためには、指導者は自然や自然環境に対する知識や技術を持っていること。引率する子どもたちをよく理解していること。安全についての知識や技術を持っていること。楽しいプログラム企画・運営ができることなどの資質や能力がなければならないでしょう。

しかし、指導者にとって、もっと大切なことがあると思います。それは、指導者自身がセンスオブワンダー（自然の不思議さに感動できる力）の心を持っていることです。子ども時代に誰もが持っている自然の美しさや神秘

さを感じる感性を大切にすることこそが指導者にとって必要だと思います。そして、子どもたちがいつも主体的で、自ら考え、自ら判断し、自ら行動できるように、指導者は子どもを支えていくことが大切です。まさに、こども中心の在り方を理解し実践できることが指導者にとって必要なのです。子どもの目線で寄り添える指導者でありたいものです。



子どもたちといっしょに自然の中へ！

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの維持管理に向けて～

築200年になろうとしている古民家「ろくすけ」。今年の春には皆さまからの寄付を活用して母屋屋根一部の茅替えと、損傷が激しかった長屋門の解体を行いました。今年も子ども達のホームステイや、ご家族でのご利用等、ろくすけににぎやかな声が溢れることでしょう。ぜひ新しいろくすけを楽しんでもらえたら幸いです。引き続き皆さまからのご支援をお待ちしています。（一口 3,000 円）

▼振込先(郵便局/払込取扱票を使用)

振替口座 00170-5-259431

加入者名 特定非営利活動法人 千葉自然学校

※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。

【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号

【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先(銀行)

千葉銀行 千葉駅前支店 普通 3740275

特定非営利活動法人 千葉自然学校 理事長 久保田 康雄

※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所(下記)へお知らせください。



NPO 法人千葉自然学校

【指定管理施設】

□千葉県立君津亀山青少年自然の家

□南房総市大房岬自然の家

□千葉県立大房岬自然公園

【管理施設】

□古民家ろくすけ



千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。